

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 昭和62年度～			
総合計画	大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	基本施策	02 生きがいのあるまちづくり
	小項目	施策	05 図書館・視覚ライブラリー
事務事業名 01 図書館運営事業			
根拠法令・例規等		図書館法 備前市立図書館設置条例 備前市立図書館設置条例施行規則	
問		担当課(室)	中央公民館
合		職・氏名	館長補佐・山口晋作
先		電話	64-1133

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	市内在住・在勤の市民
目的(何のために)	図書、記録、その他必要な資料を収集、整理、保存した、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資する。
行政活動(どのような方法で)	図書の貸出、レファレンスサービス(各種問い合わせ対応)、移動図書館車の巡回、乳幼児や児童への読み聞かせ会や行事等の読書推進活動、講座、ブックスタート等の実施。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	市民の全てが、教養、調査研究、レクリエーション等のために図書館を利用し、心豊かに生きがいのある生涯学習を行ってもらうため。

事業の実績					
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績	
図書館の年間貸出実績	冊	121,535	134,796	128,792	
年間入館者	人	42,818	45,536	46,132	
読書啓発行事参加者数	人	2,953	13,105	3,224	
ブックスタート参加者人数	人	584	669	677	
相互貸借数	冊	1,681	1,675	1,879	
レファレンス件数	件	6,447	5,876	5,224	
事業費					
直接事業費	千円	24,176	17,156	14,725	
必要人員人件費	千円	16,235	14,876	10,430	
事業費計	千円	40,411	32,032	25,155	
財源					
国・県・市・道・支・出・金	千円				
受・益・者・負・担	千円				
繰・入・金	千円				
市・道・支・出・金	千円				
そ・の・他	千円				
一	千円	40,411	32,032	25,155	
受・益・者・負・担・比・率	%				

結果指標名				
結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
図書館(本館・分館)の年間貸出実績				
結果指標量	冊	121,535	134,796	128,792
対前年比	%	-	110.9%	98.5%
活動コスト	円	40,411,000	32,032,000	25,155,000
単位当たりコスト	円	333	238	195
結果指標②				
結果指標量	人	42,818	45,536	46,132
対前年比	%	-	106.3%	101.3%
活動コスト	円	40,411,000	31,371,000	25,155,000
単位当たりコスト	円	944	689	545

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
図書1人あたりの貸出冊数	目標値(A)	3.5	3.5	3.5	3.5
	実績値(B)	3	3.3	3.2	到達目標年度
	達成率(B/A)	85.7%	94.3%	91.4%	毎年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
岡山県内公共図書館調査(岡山県図書館協会)平成20年度(平成19年度分)によると奉仕人口1人あたりの貸出冊数の平均は5.2冊。現状をひまえて3.5冊を目標にする。 図書1人あたりの貸出冊数=貸出冊数/人口					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりのコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
市の関与の妥当性	市の関与の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 県立図書館利用の窓口として入館者が増え、本市の貸出冊数及び予約(リクエスト)件数も増加している。レファレンス(いろいろな本に関する問い合わせ)件数も1日平均20件以上あり、市民にとっては必要な施設であると思われる。今後は、図書館利用と自動車文庫の周知の徹底のために、更なる広報活動が必要である。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明 図書館法に定められており、市民の生涯学習の拠点となるものだから	
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 図書整備は、購入計画、収集方針に基づいて行っているが、年々図書費が減る一方で、図書のソフトウェア数が増加の傾向にある。岡山県相互貸借システムと巡回サービスにより、利用者の要望に何とか応えている状況である。司書の研修・連絡会は随時行い、かつ業務等の質の向上と徹底に努めている。
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 限られた予算で貸出冊数と利用者を増やすためには、市内外の館同士の協力と読書ボランティア等の育成が必要である。そのため、行事等は積極的に行う。また、ブックスタートは親子で読書に親しみ、後日、図書館へ来館されるきっかけとなっている。
有効性の評価	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	130,000冊	結果指標量②	47,000人	成果指標量	
状況	拡充		現状継続		見直し	
	縮小		整理統合		休止	廃止・完了
説明						
貸出冊数や入館者数は少しずつ増えているので、それに伴い図書館行事の参加者を増やしていきたい。定期的な読み聞かせや講座等はHPや図書館だよりでPRを進めていく。21年度から自動車文庫の巡回箇所が増えたので利用状況を把握し検討する。						

総合評価		評価区分<A~E>
県立図書館利用の窓口として入館者が増え、本市の貸出冊数及び予約(リクエスト)件数も増加している。引き続き現状維持のため、司書の研修・連絡会を随時行い、職員の仕事の質とサービスの向上に努める。また、定期的な読み聞かせ行事等はボランティアに協力により活性化を図り参加者の増加へつなごう。更なる利用者を増やすために図書館のPRにも一層力を入れる。		C

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
状況		○				
説明						
現状維持しながら、市民のための図書館の目的を果たすよう事業を進めていく。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		
有効性	読書ボランティアの育成と把握		H21.7	読書ボランティアの協力による図書館行事の活性化		
効率性	延滞者の調査		H21年度	先行不明になった延滞者の転居先を調査することによって延滞図書と督促代を減らす。		
妥当性	自動車文庫の有効利用		H22年度	サービスポイントの利用状況を調査検討し、利用の促進を図る。		